

An aerial photograph of a vast, snow-covered mountain range. A winding road or path is visible on the left side of the image, leading towards a small, isolated building nestled in the snow. The sky is a pale, hazy blue, and the overall scene is serene and cold.

日本の中古車市場とNAKの役割

Used Car Market in Japan and the Role of NAK

nak

日本オートオークション協議会
Nippon Auto Auction Association



Contents

P1-P2

日本の自動車販売市場

日本の自動車販売の概況
新車・中古車販売台数推移
平均車齢、平均使用年数
自動車保有台数
メーカー別新車販売台数



P3-P5

日本の中古車オークション

オークションの概況
全盛のオークション年間実績の推移
出品、成約、成約率、平均単価の推移
地区別別オークション流通分布
オークションの歴史



P6

中古車販売店

メーカー系販売店
中古車専売店
中古車買取り専門店

P7

日本の中古車流通

中古車流通の仕組み
中古車輸出市場
中古車輸出市場の現状と推移
中古車輸出台数の推移と国別輸出上位国



P8

中古車輸出市場

中古車輸出市場の現状と推移
中古車輸出台数の推移と国別輸出上位国

P9-P13

日本オートオークション協会の

NAK設立
オークション業界の課題への取り組み
海外オークション事情の観察と交流
相場の沿革
役員一覧
NAK加盟会誌一覧



日本の自動車販売市場

日本の自動車販売の概況

日本の自動車市場は1960年代後半からモータリゼーションが進み、急速な成長を遂げてきましたが、国内の新車総販売台数は1990年の778万台をピークに下降線を辿っています。

2007年の新車総販売台数は前年比6.7%減の535万台となり、この内訳をみると、登録車が343万3829台と4年連続のマイナスでピーク時に比べて約250万台の減少、また、軽自動車は過去最高だった一昨年から一転、5.1%減となり191万9819台にとどまりました。

景気の停滞、ガソリン価格の記録的な高騰のほか、ユーザーの消費意識の変化によってクルマの需要減少がみられ、国内の自動車販売市場は低迷。また、こうした要因から、近年では軽自動車、小型車といったコンパクト

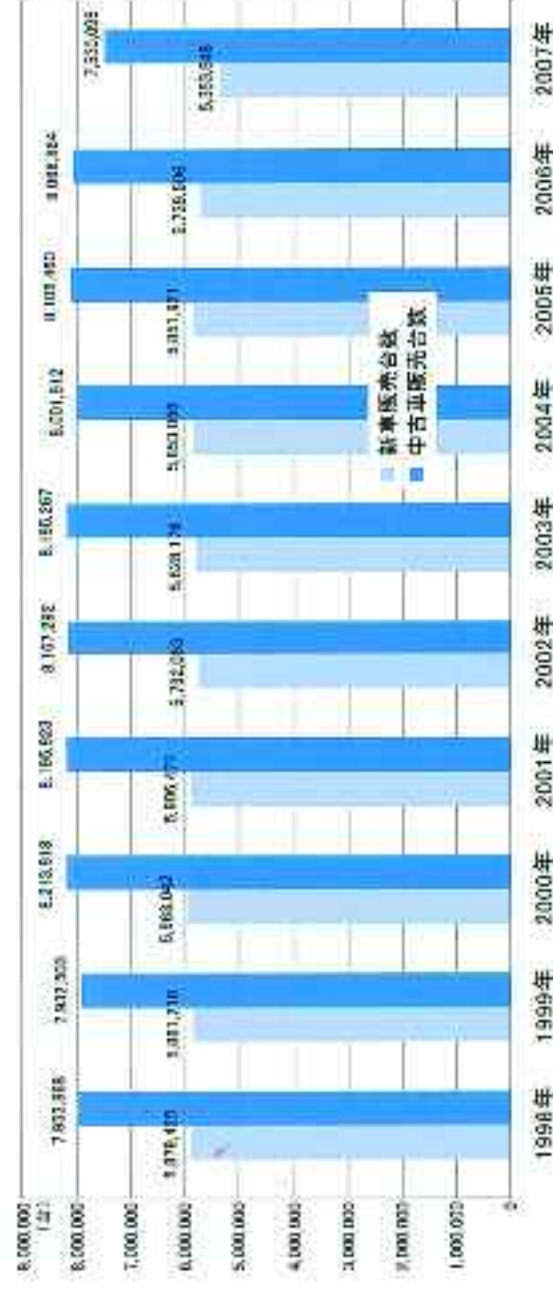
クトカーが販売の上位を占めています。

一方、中古車販売台数については1992年から新車販売台数を上回り、中古車の比率が高くなっています。2007年の中古車販売は753万96台(含軽)を記録していますが、新車販売の低迷によって中古車の供給量は抑えられ、さらに、クルマの平均使用年数の長期化の影響などによって、中古車市場も伸び悩んでいます。

ユーザーの中古車の購入先としては、メーカー系列の中古車ディーラー、あるいは中古車専業ディーラーが大きなシェアを占めています。

また日本では、個人同売買の比率が低いことも特徴です。これは、消費税率が5%と欧米諸国に比べて低いことのほか、中古車ディーラーでは、走行距離のチェックや販売後の保証制度が確立されていることが大きな要因に挙げられます。

新車・中古車販売台数推移(含軽)



※日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会発表

平均車齢、平均使用年数

人間の平均年齢に相当する「平均車齢」(含軽)は、新車需要の低下によって、2007年3月末現在で乗用車が7.09年、貨物車は8.68年と、双方ともに平成8年から

15年連続して高齢化が進み、最高齢を更新しています。一方、人間の平均寿命に相当する「平均使用年数」(同)では、乗用車が11.66年と過去最長、貨物車は10.45年延び、過去最高の11.92年となりました。

自動車保有台数

我が国の自動車保有台数は2008年3月現在7908万762台で、戦後初めて前年実績を割りました。前年までは毎年、右肩上がりで増加を続けていましたが、ただ、ここ数年のスパンで見ると1%前後の緩やかな伸びにと

どまっており、これは若年人口の減少や、クルマを維持するためのコスト増加によって保有率が減少傾向にあります。また、保有台数に関しても、販売台数と同様の傾向で、登録車の減少に対して軽自動車が増加しており、軽が全体実績の牽引役となっています。

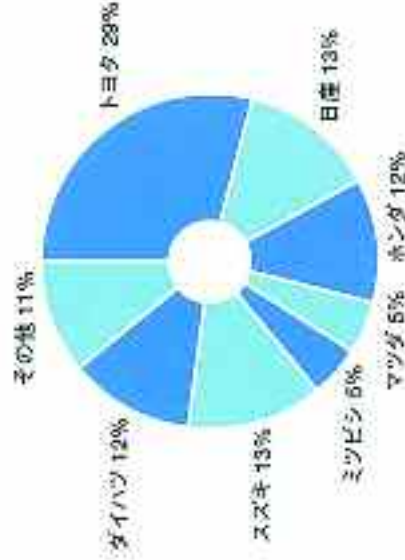
自動車保有台数推移 (各年5月末)



メーカー別新車販売台数

2007年のメーカー別(ブランド別)新車販売はトヨタがトップ。さらに、ダイハツ、日野、レクサスをあわせたトヨタグループでみたシェアは全体の40%を超えています。

メーカー別新車販売シェア(2007年 台数)



※日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会発表

※自動車検査登録情報協会発表

また、車名別では、ワゴンRが4年連続で首位となり、ベスト10のうち半数を軽自動車が占めました。

車名別新車販売台数(2007年 台数)

順位	車名	メーカー	台数
1	ワゴンR	スズキ	228,725
2	ムーヴ	ダイハツ	210,424
3	カローラ	トヨタ	147,069
4	ヴィッツ	トヨタ	121,377
5	フィット	ホンダ	116,561
6	タント	ダイハツ	100,217
7	ミラ	ダイハツ	90,500
8	ライフ	ホンダ	87,132
9	パッソ	トヨタ	80,016
10	セレナ	日産	77,544

※日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会発表

日本の中古車オークション

オークションの概況

日本の中古車オークションは、世界最先端の仕組みを有しており、「ポスコンビュータ」を使ったセリシステムが一般的です。これは参加者がポス端末のボタンを押すことによって、金額がセリ上がっていく仕組みで、1回押す毎に3000円から5000円ずつ（会場によって異なる）が上乘せされていきます。

また、出品車両は、映像スクリーンや座席に備えられているモニターに映し出して進行する「映像オークション」によって、時間当たり1000台以上のセリを実現。日本最大のオークション会場では同時に10レーンのセリが行われ、1日に1万5000台を超える出品車进行处理しています。

他方、オークション会員はインターネット回線を介して、自社のパソコンからリアルタイムでセリに参加できること

も大きな特徴です。オークション会場によっては、全落札台数の内の半数近くがこうした会場外からの落札が占めているところもあります。

現在、国内には、メーカー・ディーラー系、企業系、JU（組合）系あわせ、全国に131のオークション会場があり、2007年の実績は、開催5181回、出品台数は合計で約842万台を数え、出品台数は、毎年右肩上がりの成長を遂げています。

オークション会場では、車両状態の検査・評価制度が確立されており、また各オークション会場とNAKがオンラインで結ばれ、常に走行距離のチェックなどが行われていることが、参加者の信頼を高め会員が増加した大きな要因といえます。

また、こうした仕組みが確立しているからこそ、会員は、実際にクルマをみることなく、インターネットでも安心して落札することができるのです。



日本最大、10レーンのオークション



ポスを使ってセリに参加

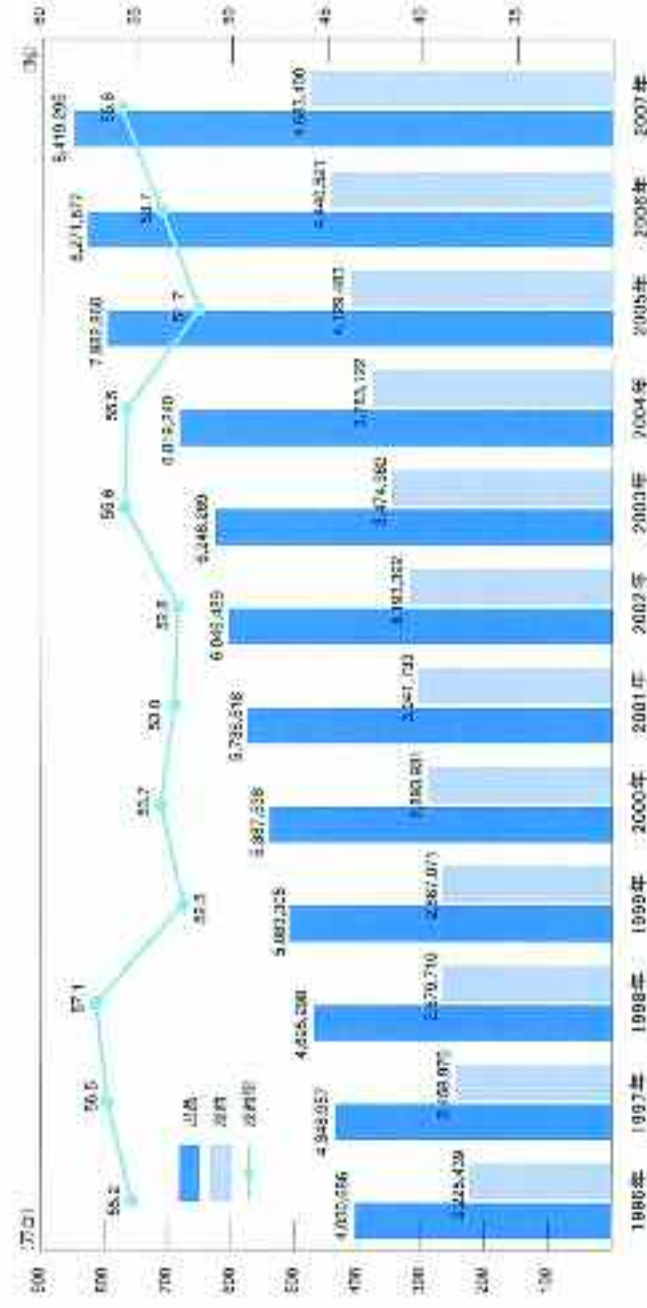


出品1万5000台以上を誇る大都会



オークション施設の年間出品は全国で842万台

全国のオークション年間実績の推移(出品、成約、成約率)



昔から大車種トラックまで出品車はバリエアティに富む



近年、成長を続けるオークション市場

出品、成約、成約率、平均単価の推移

中古車オークションの実績推移を見ると、その規模を表す出品台数は毎年右肩上がりの拡大を続けてきました。

2007年の実績は、出品が約842万台、前年同期比では1.8%の増加を示し、その成長率は鈍化しているものの、引き続き増加しました。自動車リサイクル法の施行によって、ここ数年で低年式・過走行のいわゆるリユース車両がオークション市場へ流入する傾向が強まり、全体実績を押し上げる大きな要因となっています。

一方、成約台数は同5.5%増を示し、成約率は同1.9ポイントのプラスとなりました。中古車輸出の拡大にともない、オークションでの落札車も海外へ輸出されているケースが年々増加しています。また、平均単価はリユース車のオークションへの流通などで下落が続いていますが、07年は15年振りに前年比プラスへと転じました。

中古車オークション市場の今後の予測としては、出品台数は、緩やかな成長でとどまっていることから分かれるとおり、これまでのような急激な伸びは期待できない状況にあります。

地区別のオークション流通分布(2007年)

オークション市場を地域別にみると、人口、経済基盤、自動車販売台数などで圧倒的な関東甲信越地区に中古車が集まっていることが分かります。2007年には、その出品シェアが36.4%まで拡大しました。

大手会場にバイヤーとクルマが集まる最近の傾向

地域別の流通分布図



オークションの歴史

日本の中古車オークションの歴史は1967年に遡ります。誕生から40年を迎えましたが、この間、マーケットは飛躍的な成長を遂げました。

スタート当時のオークションは、1開催の出品が100台から200台規模、屋外の会場にバイヤーを並べ、セリはコンダクター(オークションニア)が進行、参加者は数十人程度でした。以降、手ゼリは一時代を築き、1日に最大1000台以上の出品車を処理するようになりました。

そして、1978年には、オークションの歴史を一変せるともいえるべき、ポスコンピューターシステム(機械ゼリ)が登場。セリのスピードは一気にアップしました。

ポスオークションのスタートによって、1日に2000台、

3000台規模のオークションが可能になり、またレーンの複数化、現車を引き回さない「映像オークション」の登場によって、オークションは大きく様変わりしました。

オークションの年間出品規模は1994年に初めて300万台を突破、1999年には500万台、そして2006年は800万台を大きく上回りました。

ここ数年は、会場外からのセリ参加も活発化しており、そのシステムはこれまでの衛星ネットワークから、インターネットへと移行しました。



手ゼリ時代のオークション

中古車販売店

メーカー系販売店



日本最大規模のメーカー系を誇るカミナリ

トヨタ、日産、ホンダなどのメーカー系販売店は、ここ数年で中古車戦略を本格化。本業の新車販売に加え、中古車販売、サービスといった分野を新たな収益源の柱として育てていくことを明確化しています。

これは、国内の新車販売市場が今後も大きな成長を望めないことから、メーカー系の販売店でも事業の多角化を進めた結果といえます。これまでは新車販売が好調だったこともあり、中古車販売をメインにしてきたメーカー系販売店は少な

ったのが実情です。

新たな中古車戦略としては、トヨタ、日産グループのような大規模中古車販売場に加え、ユーザーからの直接買取りでも各メーカーが独自に展開。トヨタは「T-UP」、日産は「カウゾー」などの買取り専門店を全国に出店しています。

メーカー系販売店が中古車事業に力を入れたことで、中古車専門店にとっては、ますます競争が厳しくなることが予想されます。

中古車専門店



日本の中古車販売市場は専門店が高いシェアを誇る

日本国内の中古車販売は、専門店が大きなシェアを握ってきました。業界の草創期から中古車流通の中核を専門店が担ってきた経緯があり、また中古車流通にかかわる法整備や保証制度の確立なども、専門店が中心となって推し進めてきたことから、中古車市場はこうした販売店を中心に歴史を刻んできました。

中古車専門店には、JU中販連^{※1}の加盟店で1万1000社、2万店舗、これに加え国内には数万社の専門店が事業を展開しているといわれ

ています。

専門店では、1000台規模を展示している事業者もありますが、主流は中小規模の事業者です。またメーカーを問わずあらゆるクルマを販売できることで、ユーザーの細かいニーズに応えています。

さらに、整備業者のほか、ガソリンスタンドなど他業種の事業者も中古車販売に参画しており、競合は激化の一途を辿っています。

※1 全国11,000社の中古車販売店で組織する社團法人

中古車買取り専門店



中古車買取り店の拡大で中古車流通も大きく変化

ここ数十年で急速に店舗を拡大してきたのが「中古車買取り専門店」です。文字通り、ユーザーから中古車を直接買い入れるシステムを展開しており、それまで新車ディーラーに入庫してきた下取り中古車が、買取り専門店へと流出。中古車流通に大きな変革がもたらされました。さらに、最近では全国に多店舗展開する異業種なども、そ

のステールメリットを活かして中古車買取り市場に参入しています。

中古車買取り専門店がユーザーから買取った中古車は、直接オークションへ出品されることが多く、回転率の高さで利益を確保しているのが大きな特徴です。大手オークション会場では、こうした買取り店の出品が大きなシェアを占めています。

日本の中古車流通

中古車流通の仕組み

日本の中古車流通は、オークションを中核に業者間売買が行われ、ユーザーに供給されています。

以前は、新車ディーラーや中古車ディーラーが、新車、中古車販売の際にユーザーから中古車を下取り、それを事業者間で売買、再び中古車ユーザーに販売していました。

現在でも、多くのユーザーが新車購入や中古車購入の際に、下取り車をディーラーへ売却しますが、その処分に際しては、中古車オークション会場が活用されています。

事業者にとって、オークション会場が利用される理由は、そこに多くの中古車が集まり、購入の選択肢が広がること、また1台の売買に際し、多くの買い手が関与す

ることから、中古車価格が実際のニーズで決定し、取引の透明性が高いことが挙げられます。

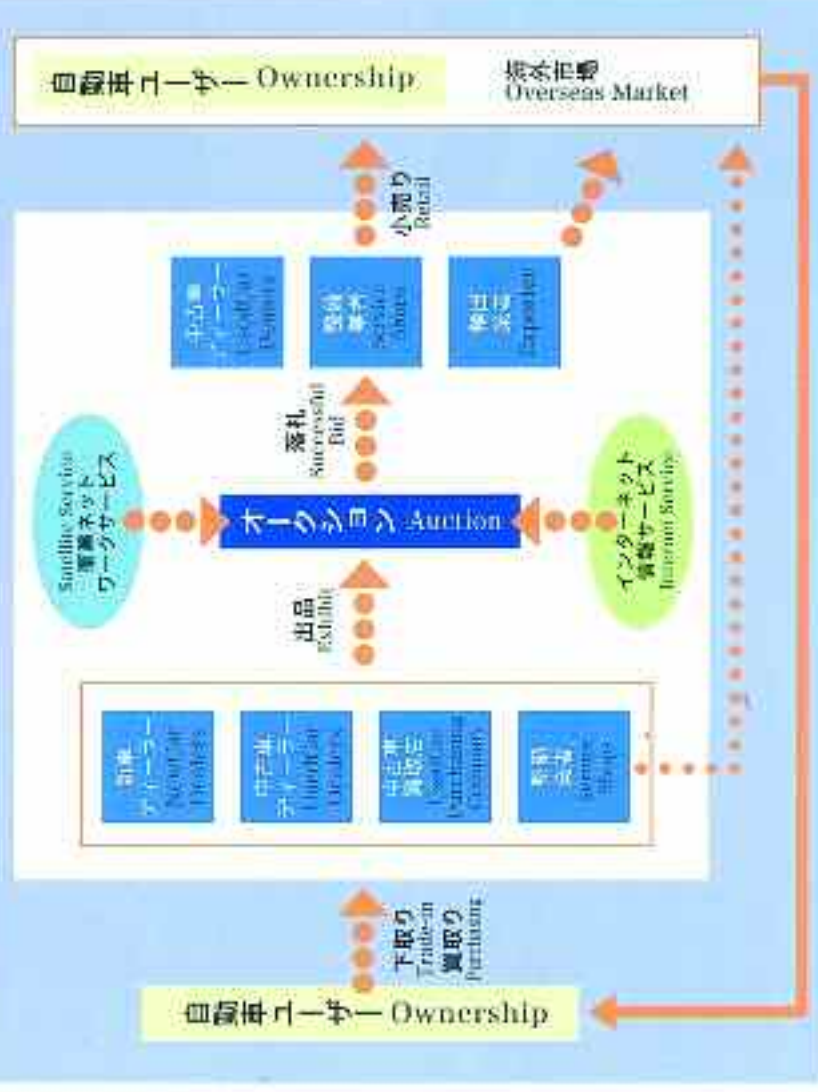
ここ数年の中古車流通の大きな変化としては、中古車を直接ユーザーから買取る「買取専門店」が出現したことです。ユーザーはこうした店舗で自家用車の売却を行い、現金を得ることが可能ことから高い関心を持つようになりました。そのため、メーカー系も「買取専門店」を展開しています。

「買取専門店」は購入した中古車を素早くオークション会場で売却することにより利益を得ています。

また、海外での日本製中古車のニーズが高まったことに伴い、輸出事業者もオークション会場を積極的に利用しています。

こうした要因からオークション取引は短期間に中古車流通の主流となり急激に成長しました。

中古車流通の仕組み Distribution of Used Vehicles



中古車輸出市場

中古車輸出市場の現状と推移

日本からの中古車輸出は、年々拡大の一途を辿っています。2007年の中古車輸出台数は、前年比14.4%増の130万1162台となり、前年実績を16万3442台上回る過去最高を更新しました。

実績を牽引したのは、全体の3分の1を占めるロシア向けで、前年比22.8%増(47万8878台)を記録。2位のU.A.E(12万2521台)、3位のニューージーランド(10万1238台)も実績を拡大しました。

このほか、4位チリ(9万6844台)、5位ケニア(4万2347台)、6位南アフリカ(3万8715台)など南米、アフリカ方向が好調でした。

一方、前年5位のガザフスタン(右ハンドルの輸入

禁止で激減、ベスト25位のランク外に消えています。

現在では、新車、中古車とも輸出が好調なことから自動車専用船のスペース確保が困難になっています。こうしたなか、コンテナ船による中古車輸出が拡大しています。



昨年の中古車輸出は130万台を突破

中古車輸出上位25ヶ国(2007年)

順位	国名	輸出台数(台)
1	ロシア	478,878
2	UAE	122,521
3	ニューージーランド	101,238
4	チリ	96,844
5	ケニア	42,347
6	南アフリカ	38,715
7	ペルー	28,621
8	フィリピン	27,401
9	シンガポール	24,889
10	UK	24,270
11	パキスタン	21,576
12	バングラデシュ	18,486
13	マレーシア	18,423
14	モンゴル	17,802
15	ウガンダ	16,761
16	キプロス	15,086
17	スリランカ	14,230
18	タンザニア	12,972
19	スリナム	12,513
20	アメリカ	11,966
21	ジャマイカ	10,735
22	ドミニカ	10,389
23	オーストラリア	9,768
24	タイ	9,640
25	アイルランド	8,520

中古車輸出台数の推移



日本の中古車は世界的に人気

日本オートオークション協議会

中古車業界では昭和30年代の草創期から、一部不良業者による走行メーターの改ざん・巻き戻しが行われ、中古車市場の拡大とともに、こうした不正行為が社会問題化した。JU中販連²¹や、自動車公正取引協議会²²など中古車関連団体では、メーター改ざん防止に向けた取り組みを強化、また自動車メーカーは、改ざん困難な不可逆メーターの開発などで、不正行為に対処してきましたが、実際、水面下では、不良業者が暗躍する事態が続きました。

こうした中、平成5年ごろから一部のオークション会場は、独自に走行メーターの管理システムを構築、オークション再出品時に走行距離・事故車履歴などをチェックする仕組みにより、不良業者を排除し業界の正常化へ動き出しました。



20年度総会で事務局代表幹事が就任

■ NAK設立

平成13年、システムの統合を図るとともに、オークションに関わる諸問題解決に業界を挙げて取り組むべく、国内ほとんどのオークション会場が参加のもと、「日本オートオークション協議会」(NAK)が設立されました。

これにより、国内に流通するクルマの走行メーター情報のほとんどがネットワークで結ばれ、事実上、メーター改ざん行為が不可能な体制が構築されました。以来、NAKでは、走行メーター管理システムのネットワークをオークション業界全体に広げる一方、入札会、新車・中古車ディーラー、リース会社、中古車買取店など中古車流通市場全体に拡大。2008年6月現在、管理台数は3100万台、のべデータ数7700万件に達しています。



2005年のスベイン杯



日本オートオークション協議会設立総会

日本オートオークション協議会(NAK)は、全国のオークション事業者が一体となって2001年に発足したオークション事業者団体です。

NAKには、全国のオークション会場のほか、中古車入札会場が加盟、走行メーターに関する情報を入力して、「メーター管理システム」を運営し、走行メーター改ざん車の不正流通防止へ大きな役割を果たしています。

一方、新車・中古車ディーラーや中古車買取店の店頭から走行距離の照会ができる「個別検索システム」は3100端末を設置。中古車の下取りや買取の際に活用されており、さらに一般ユーザー向けの「消費者開示システム」は、自家用車の走行距離をチェックすることができ、消費者からも大きな信頼を得ています。



2007年のオランダ・ベルギー出張



世界のオークション会場を視察

■ オークション業界の課題への取り組み

オークション会場の出品車両の修復歴基準については、(財)日本自動車査定協会^{※2}との共同作業によって、すでに一元化した修復歴判定基準を制定、マニュアルを作成し、全国の会場で活用されています。

オークション会場の出品車両の評価点についても、標準化した基準の作成に向けて、専門家による部会を設置し検討を開始。さらには、車両データの入力方法の統一化などにも着手しています。

また平成21年1月に全国一斉導入開始予定の「評価点ガイドライン第一次」については、人間的開始準備を実施しています。

■ 海外オークション事情の視察と交流

平成13年度以来、欧米・豪州などへ中古車市場及び、自動車オークションに関する市場動向視察団を派遣。

それぞれの国で、現地の自動車業界団体や事業者との積極的な情報交換や、共同セミナーの開催などを行い、交流を深めています。

※1 JIC中概法 全国11,000の中古車販売店で組織する社団法人

※2 自動車公正取引協議会 自動車メーサー、販売店などで組織する公団

法人、「自動車公正競争規約」を運用

※3 日本自動車査定協会 中古自動車査定試験官の普及定着に努める中、公正な第三者機関



2006年のメキシコ視察

日本オートオートクシジョン信託会

1998年	10月	運営者主導で「オートクシジョン事業者連絡協議会」設立
1999年	4月	「川系が主体となり」11走行管理システム協議会」設立
2000年	1月	11走行管理システム協議会が「日本走行管理協議会」に組織名称を変更
2001年	4月	オートクシジョン業界が一体となり「日本オートオートクシジョン協議会」設立。 メーダー・チェッカーシステム稼働
2001年	9月	アメリカ西部沿岸へ「米国中古自動車流通事情情報団」を派遣するも、同時多発テロの影響で中止
2002年	2月	フランス・ミイックへ「欧州中古自動車流通事情情報団」を派遣
2002年	6月	代表幹事に小川逸郎氏(社団法人日本中古自動車販売協会連合会会長)が就任
2002年	8月	社団法人日本損害保険協会から、営業車両データの提供開始
2002年	9月	社団法人日本中古自動車販売協会連合会、財団法人日本自動車流通協会を窓口として、「消費者向けシステム」開始 イギリス・イタリヤへ「欧州中古自動車流通事情情報団」を派遣
2003年	8月	大手リース会社・ディーラーが主催する入札会館内のデータ提供開始
2003年	9月	アメリカ(アトランタ・マイアミ)へ「米国中古自動車流通事情情報団」を派遣
2004年	6月	服部太氏(株式会社ユー・エス・エス社長)が2代目代表幹事に就任
2004年	9月	オーストラリアへ「豪州中古自動車流通事情情報団」を派遣
2005年	4月	オートクシジョン会場の修後歴車基準の統一化をスタート。また、出品リストの走行不明マーカーの適正表示を推進
2005年	9月	スペインへ「スペイン中古自動車流通事情情報団」を派遣
2006年	6月	井上一徳氏(株式会社日産コーストカーセンター社長)が3代目代表幹事に就任
2006年	9月	メキシコへ「メキシコ中古自動車流通事情情報団」を派遣
2007年	9月	管理データ数6630万件となる
2007年	9月	ベルギー・オランダへ「中古自動車流通事情情報団」派遣
2007年	10月	「会場板・新走行管理システム」稼働。 WEBアプリケーションサービスへの変更を実施したほか、初出品車の特別、修復歴や災害車の照会もチェック可能に
2008年	6月	徳崎清孝氏(株式会社オートネット社長)が4代目代表幹事に就任
2008年	7月	管理データ数7700万件となる

自動車業界

1997年	4月	消費税を3%から5%に引き上げ
1997年	12月	世界初のハイブリッド乗用車「プリウス」発売
1998年	5月	自動車登録ナンバーの3ケタ化と希望ナンバー制がスタート
1998年	10月	軽自動車の規格を改正。
1998年	10月	軽自動車メーカーは自社製品を一律にフルモデルチェンジ
1998年	12月	純ダイムラー・ベンツとスウイスラーが合併
1999年	3月	日産がルノーと資本提携
1999年	10月	トヨタ自動車が生産累計1億台を達成
2000年	2月	1999年の中古車オークション出品台数が500万台突破と発表
2000年	4月	EUでの試験運用が千歳と埼玉の両県でスタート
2000年	8月	三菱自動車工業とダイムラー・クライスラーが資本提携
2001年	4月	自動車税制のグリーン化スタート。 低公害・低燃費の自動車税、取得税を軽減
2001年	6月	改正道交法公布。飲酒や新免許など悪質な違反を厳罰化
2001年	12月	自動車NOx法改正、NOx・PM10に 初の1強自動車整備士検定試験を実施
2003年	10月	東京、神奈川、千葉、埼玉でディーゼル車集積がスタート
2003年	12月	ダイムラー・クライスラーが三菱ふそうトラック・バスを子会社化
2004年	3月	日本自動車会館が港区芝大門にオープン、 日本初の女性1強自動車整備士が誕生
2004年	6月	日本自動車工業会が国土交通省に登録自動車の280馬力規制廃止を届出
2005年	1月	「自動車リサイクル法」が施行
2005年	4月	高松道路での2強車の2人乗りが解禁
2005年	10月	トヨタ自動車が発せネオトルキョーターズから富士重工乗取を取得、筆頭株主に
2005年	11月	ダイムラー・クライスラーが三菱自動車との資本提携を解消
2006年	7月	自動車工業会発表、平成17年度の海外生産台数が初めて国内を上回る
2006年	10月	全国184所でETC専用のインターチェンジが運用開始
2006年	10月	伊豆、倉敷など17の公道ナンバラーを交付
2007年	7月	トヨタが世界販売(1-6月)で初めてトヨタに
2007年	10月	ダイムラー・クライスラーがクライスラーを売却し「ダイムラー」へ
2008年	3月	34年間続いたザンギン税の暫定税率が決定。 リッターあたり25.1円値下げとなる。5月から戸延長が決定
2008年	6月	道路交差法の改正により、 後部座席のシートベルト着用が義務化

NAK加盟会場一覧

A.A.A愛知オートオークション
 アライ抽台会場
 アライ小山会場
 アライベイサイド
 広島オートオークション
 いすゞモーターオークション東
 いすゞモーターオークション西
 いすゞモーターオークション九州
 いすゞユーマックスU-CON営業所
 H.A.A和戸オートオークション
 ニル・エー・エーオークション四国
 ニル・エー・エーオークション関西
 J.U.N山エール・エー・エーオークション
 オークネットTVオークション
 大阪ロッセオートオークション
 GAO!オークション
 GAO!入札会 東京会場
 GAO!入札会 名古屋会場
 GAO!入札会 福岡会場
 K.C.A.Aえびの
 K.C.A.A山口
 K.C.A.A福岡
 札幌オートオークション
 J.A.A
 J.A.Aつくば
 (注)日本中古自動車販売協会連合会
 札幌地方中古自動車販売事業協同組合
 面筋地方中古自動車販売事業協同組合
 秋田県中古自動車販売商工組合
 宮城県中古自動車販売商工組合
 山形県中古自動車販売商工組合
 福島県中古自動車販売商工組合
 栃木県中古車販売店商工組合
 新潟県中古自動車販売商工組合
 静岡県中古自動車販売商工組合
 茨城県中古自動車販売商工組合
 千葉県中古自動車販売商工組合
 埼玉県中古自動車販売商工組合
 東京都中古自動車販売商工組合
 神奈川県中古自動車販売商工組合
 山梨県中古自動車販売商工組合
 長野県中古自動車販売商工組合
 静岡県中古自動車販売商工組合

愛知県中古自動車販売商工組合
 岐阜県中古自動車販売商工組合
 三重県中古自動車販売商工組合
 富山県中古自動車販売商工組合
 石川県中古自動車販売商工組合
 奈良県中古自動車販売商工組合
 鳥取県中古自動車販売商工組合
 島根県中古自動車販売商工組合
 広島県中古自動車販売商工組合
 山口県中古自動車販売商工組合
 愛媛県中古自動車販売商工組合
 福岡県中古自動車販売商工組合
 豊後県中古自動車販売商工組合
 大分県中古自動車販売商工組合
 熊本県中古自動車販売商工組合
 宮崎県中古自動車販売商工組合
 鹿児島県中古自動車販売商工組合
 沖縄県中古自動車販売商工組合
 京都オートオークション
 シー・エー・エー東北会場
 シー・エー・エー東京会場
 シー・エー・エー中部会場
 シー・エー・エー岐阜会場
 全ワイドウイングA.A.
 G.N.Nオートオークション
 ジャブオークション東京会場
 ジャブオークション大阪会場
 S.A.A浜松
 S.A.A近畿・中国・四国
 S.A.A九州
 スバル中古車オートオークション関東
 ゼロニチリク・カーセレクション北海道
 ゼロニチリク・カーセレクション仙台
 ゼロニチリク・カーセレクション千葉
 ゼロニチリク・カーセレクション関西
 ゼロニチリク・カーセレクション神戸
 ゼロニチリク・カーセレクション博多
 エーベック入札会
 E.C.Nオークション
 T.T.Sオークション
 T.A.A北海道(2008年10月オープン)
 T.A.A東北
 T.A.A関東

T.A.A横浜
 T.A.A中部
 T.A.A近畿
 T.A.A広島
 T.A.A九州
 T.A.A新九州
 長野県自動車販売協会オートオークション会
 N.A.A東京
 N.A.A名古屋
 N.A.Aオーストラリアオークション
 N.A.A福岡
 ハナテックオートオークション
 多摩ハナテックオートオークション
 ヒーローズバーズオートオークション
 富士オートオークション
 ベイオート
 H.A.A北海道会場
 H.A.A仙台会場
 H.A.A東京会場
 H.A.A名古屋会場
 H.A.A関西会場
 H.A.A福岡会場
 マツダ中販東京センター
 マツダ中販大阪センター
 マツダ中販広島センター
 U.S.S札幌
 U.S.S東北
 U.S.S北陸
 U.S.S新潟
 U.S.S静岡
 U.S.S武蔵
 U.S.S東京
 U.S.S関東
 U.S.S横浜
 U.S.S新潟
 U.S.S静岡
 U.S.S名古屋
 U.S.S大阪
 U.S.S神戸
 U.S.S岡山
 U.S.S福岡
 U.S.S九州
 U.S.S-R名古屋
 U.S.S大阪
 U.S.S神戸
 U.S.S岡山
 U.S.S福岡
 U.S.S九州
 (平成20年8月現在、随時変更)


日本オートオークション協議会
 Nippon Auto Auction Association

本部 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-18 7階ビル
 運営事務局 TEL (03)3271-8850 FAX (03)3278-0847